

# アウトドアブームを地域振興に生かす



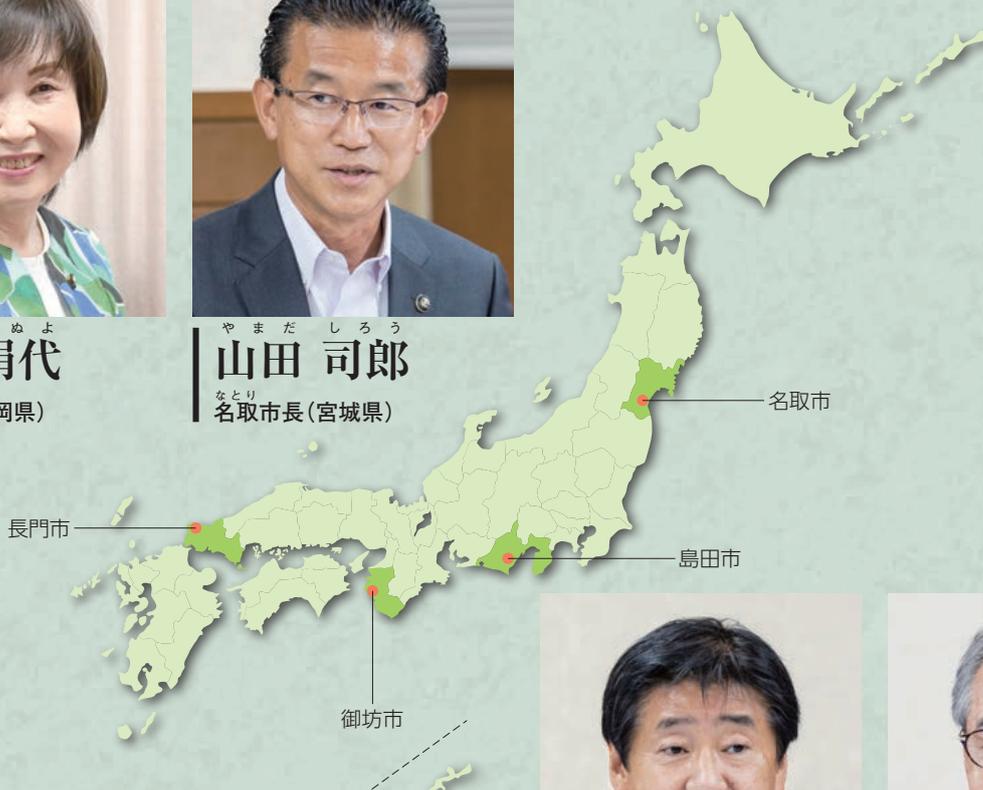
そめ や きぬよ  
**染谷 絹代**

しまだ  
島田市市長(静岡県)



やまだ しろう  
**山田 司郎**

なとり  
名取市長(宮城県)



長門市

名取市

島田市

御坊市

司会・コーディネーター

かわい たかよし  
**河井 孝仁**

東海大学文化社会学部広報メディア学科教授



えはら たつや  
**江原 達也**

ながと  
長門市市長(山口県)



みうら げんこ  
**三浦 源吾**

ごぼう  
御坊市長(和歌山県)



います

※新型コロナウイルス感染症の感染防止に配慮し開催しています

必要の事柄などについて語っていただきました。

3密の回避が求められるコロナ禍において、感染リスクが低い屋外で非日常を楽しむことができる。キャンプや登山などのアウトドア・レジャーが注目されています。地域独自の自然環境を生かして、誘客促進や地域のブランド力向上につなげようと、キャンプ場やグランピング施設をはじめ、アウトドアを楽しむ拠点を進める自治体も少なくありません。座談会では、地域のアウトドア資源を活用して地域活性化を進める山田・名取市長、染谷・島田市長、三浦・御坊市長、江原・長門市長にお集まりいただき(染谷市長はWEB会議での参加)、具体的な取り組み内容、効果的なPR法、地域のファンづくりに向けて

## アウトドア資源を活用した 地域活性化の取り組み

**河井** コロナ禍を契機に、密を避けて楽しめるアウトドア・レジャーへの関心が高まり、地域のアウトドア資源を活用して、観光振興などを進める自治体も増えてきました。それでは、各都市の取り組み内容についてお話しいただきたいと思っています。

**山田** 令和元年6月、青森県八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸をつなぐ「みちのく潮風

地域に関する  
内容であれば、官民を  
問わず幅広く情報発信に  
努めることで、エリアの  
魅力は高まります。



山田 司郎  
名取市長(宮城県)

トレイル」が全線開通しました。東日本大震災からの復興支援を目的に、環境省が整備を進めた全長1000km超のトレイル(自然の中を歩く道)で、本市閑上地区にはその拠点施設として「名取トレイルセンター」が開設されました。

国内外から注目され始めた矢先に、新型コロナウイルスが流行し、外国人ハイカーの受け入れがなくなかったのは残念なことでしたが、今年の4月には、センターの敷地内にキャンプを楽しめる約5000㎡の野営場が整備されました。交通アクセスの良さ、夜景の美しさなどが支持されて、たちまち人気のキャンプ場として、連日にぎわいを見せています。近々、仙台空港の国際線が再開される予定です。外国人観光客を含め、さらに多くの人に利用いただきたいと考えています。

また、センター周辺には、東北で唯一のサイクルレクリエーション施設「名取市サイクルスポーツセンター」、名取川を望む堤防沿いに整備され、SUP(スタンドアップパドルボード)などの水上アクティビティも体験できる「かわまちてらす閑上」などの観光施設が集積しています。市としてもこれらの施設を核に、市内全域を対象としたサイクリングコースの設定、水辺を生かした「かわまちづくり」の推進などを通して、多くの人にアウトドアを楽しんでいただくための環境整備に努めているところです。

**染谷** 廃校となった旧湯日小学校の跡地を活用して、今年の3月、市内初のグランピング施設「Glamping&Port結」がグランドオープンしました。グランピング施設とは、テントやキャンプ道具などを用意しなくても気軽に豪華なキャンプが楽しめる観光施設です。「地区の拠点である小学校がなくなれば、この地域は衰退する。取り

壊さずに活用してほしい」との地域住民の皆さんの声を受けて、公募型プロポーザルを実施した結果、民間の不動産会社を開発者として、グランピング施設へ再生されることになりました。

校庭に設置された21棟のテントには全て冷暖房が完備されており、ベッドやソファ、冷蔵庫も備え付けられています。また、各テントのデスクスペースに個別の食事スペースも用意されており、豪華な食事が楽しめます。さらに、フルリノベーションした校舎内にはシャワーブースやトイレ、浴室が設けられているほか、体育館やプールも利用できるなど、学校施設を生かしたアクティビティ体験ができます。住民の皆さんにとって思い入れの深い校舎を活用しながら、資金力のある民間企業の創意工夫により、魅力



「みちのく潮風トレイル」の拠点施設として開設された「名取トレイルセンター」(名取市)

地域のファンづくりのためには、ふるさとを愛し誇りに思い、その魅力を力強く発信する市民の力が欠かせません。



染谷 絹代  
島田市長(静岡県)

的な観光施設が出来上がったと思います。オープン以来、地域内外で評判を呼び、ほぼ満室状態が続いているほか、廃校した校舎の活用にも頭を悩ませる行政関係者の視察も相次いでいます。今後は大井川流域活性化の拠点として、周辺の観光資源との連携なども進めていきたいと考えています。

**三浦** 御坊市におけるアウトドア資源の一つに、日高川河川敷に平成9年に開業した「野口オートキャンプ場」があります。長らく利用者が低迷していましたが、地方創生を目的に同キャンプ

場を「キャンピングカーの聖地」にしようと、近年、観光プロモーションに力を入れてきました。「100万人が1回来る御坊ではなく、1万人が100回来る御坊へ」をコンセプトに六つのテーマで展開してきた「わがまち魅力発信事業・GO!GOBOプロジェクト」の一環です。

当初は何を売りにしたらいいのか、模索の日々が続きましたが、キャンピングカー所有者の親睦団体「キャンピングカー倶楽部(CCC)」との連携が転機となりました。CCCの助言を受けて、1区画が通常のキャンプ場の3倍ほどある敷地の広さに着目し、「とにかく広いオートキャンプ場」をセールスポイントにアピールしたところ、人気が高まり、令和元年度の利用者が1万人を超えました。

その後も約200㎡のドッグラン、キャンピングカーの汚水廃棄施設「ダンプステーション」の設置、高アンペア電源の増設など、利用者の利便性向上に向けて、設備の充実にも取り組んだ結果、コロナ禍の影響により令和2年度、3年度は一定期間の閉鎖を余儀なくされたものの、利用者数は9000人前後と高い水準を維持しています。

**江原** 長門市は本州の最西北端に位置していることもあって、交通アクセスは決して良くありません。また、高品質の農水産物に恵まれているものの、大都市圏への販売ロットの確保が難しいという課題も抱えています。長門市では、これらの課題解決の方策として、観光振興に期待をかけています。アクセスが不便であっても、気持ちよく時間を過ごす場所があれば、逆に滞在時間の延長につながるほか、農水産物の流通困難という問題も、来訪者向けに温泉旅館・飲食店での利用を促進すれば解決できるとの考えからです。



旧小学校を活用して整備されたグランピング施設「Glamping & Port結」(島田市)

長門市の代表的な観光資源としては、景観の美しさで定評のある元乃隅神社や風情が異なる五つの温泉郷、地域の産物をそろえる「道の駅ゼンザキツチン」などがあります。市ではこれらを組み合わせたセットツアーの推進に加えて、市内に海水浴場が四つ、キャンプ場が八つもある、豊かなアウトドア環境を生かし、イカ釣り体験やシーカヤック、SUPなど多彩な体験プログラムの展開にも取り組んでいます。同時に、利用者の利便性を考えて、旅行案内からサービスの予約、決済まで一括でできるオンラインサイトを構築しました。

また、昨年から下関市、美祢市と連携して、アウトドアツーリズムによる地域振興も進めており、今年7月には、3市が連携したルートが、



市内のキャンプ場を「キャンピングカーの聖地」にしようと、近年観光プロモーションに力を入れてきました。

三浦 源吾  
御坊市長(和歌山県)

県内で初めて「ジャパンエコトラック」(トレッキング・カヌー・自転車など人力による移動手段で、多様な自然を体感できる旅行スタイル)に新規登録されました。

### 多様な主体と連携した効果的なPRの展開

**河井** アウトドアブームだからといって、単にアウトドア施設を造れば、観光客が増えるというわけではありません。各都市では、どのようなPR活動を行ったのか、教えてください。

**山田** 今は行政も予算をかけて地域を自らPRしていかなければいけない時代です。名取市でも市の予算で動画を制作するなど、広報に注力しています。

また、プレスリリースも重要です。特に定例記者会見では、市の施策の周知は当然のこととして、あえて民間の取り組みや施設などについてもお伝えするようにしています。地域に関する内容であれば、官民を問わず幅広く情報発信に努めることで、エリアの魅力が高まると考えているからです。

**江原** 長門市では、観光コンベンション協会を軸に、市のシテイセールス担当、観光政策担当、企業誘致担当など、関係する部署が連携を取りながら、観光分野のPR活動を進めています。併せて、テレビ局をはじめとするメディアへの働き掛けの一環として、広報・シテイセールス担当を中心に、市の観光イベントや施設などを案内するメディアツアーも行っています。

さらに本市では、民間企業との連携によるまちづくりを進めており、連携協定を締結した各企業と力を合わせ、共同でPRなども進めているところ です。

**三浦** 野口オートキャンプ場はまちなかから近いことも魅力の一つで、車で10分圏内にコンビニやスーパー、ホームセンター、スパ銭湯、酒屋などの各種店舗・施設が立地しています。また、単独路線としては日本一短いローカル私鉄といわれる紀州鉄道、昔ながらのまち並みが残る寺内町、おいしいフルーツが楽しめる観光農園など、市内には多くの観光資源があります。こうした点もオートキャンプ場の利用者にお知らせし、まち全体の活性化につなげるため、キャンプ場



「キャンピングカーの聖地」として人気が高まる「野口オートキャンプ場」(御坊市)

の周辺マップ、おすすめのグルメ・観光情報なども掲載したパンフレットを作成しました。

**染谷** グランピング施設の開設に当たっては、もちろん市の事業ですから、行政としてさまざまな媒体を通して広報を行いました。特に大きな効果があったのが口コミです。プレイベントとして、グラウンドオープン前に希望者をお招きして内覧会を行ったり、旧湯日小学校の最後の在校生やその保護者を対象に宿泊体験の機会を設けるなどしたところ、参加された皆さんの口コミ効果で大きな話題となりました。

### デジタル時代に求められる コミュニケーション施策

**河井** 行政分野でもあらゆる業務においてデジ

キャンプ場が八つもある  
豊かなアウトドア環境を  
生かして、多彩な  
体験プログラムの展開にも  
取り組んでいます。



江原 達也  
長門市長(山口県)

タル化が急速に進んでいることと思います。デジタル技術を使った情報発信なども非常に重要性を増していると思いますが、いかがでしょうか。

**三浦** 確かにYouTubeをはじめとしたSNSの発信力は大きいですね。御坊市でもCCC会員の皆さんをはじめ、野口オートキャンプ場を利用された方々が、思い思いにYouTubeなどで発信してくれれます。実際に利用された上で特徴や感想を伝えてくれますから、実感がこもっていて、視聴者にも分かりやすいようです。また、

御坊市としても、キャンプ分野に特化して活躍されているYouTuberをお招きして、周辺の観光資源を案内するミニツアーを行ったこともあります。

**山田** 名取市でもコロナ禍前には、周辺の自治体と連携して設立したDMO(観光地域づくり法人)を通じて、海外からインフルエンサーをお招きし、まちをPRしていただいたことがあり、大きな反響がありました。

観光に訪れた方々が配信される地域の紹介画像などを私たち地元の人が見ると、いつもと変わらない、当たり前の日常風景が多いように感じてしまいますが、逆にそれが視聴される方々の感動を呼ぶようです。地元の人たちが目に留めないありのままの風景を、新たな地域の魅力として市内外に伝えてくれるところにも、SNSの良さを感じます。

**三浦** 撮影した画像・映像をYouTubeをはじめとしたSNSで、すぐに配信したいと考えている利用者もいらっしゃいます。御坊市ではそのニーズに応え、情報発信をこれまで以上に促進するために、野口オートキャンプ場にWiFiの整備も進めていきたいと考えています。

**染谷** 島田市では3年前にデジタル変革宣言を行い、あらゆる領域でデジタル化を進めています。他市に先駆けて、LINEを活用した情報発信も以前から進めており、同アカウントの友達登録数は、人口約10万人のまちで9万3000を超えています。市内はもとより、市外の方々にも関心を持っていただけていることが分かります。

私は情報発信に関しては、広報物を作成し、それを相手に届けるだけでなく、分析までする



絶景広がる雄大な自然の中で楽しめる、多様な体験プログラムを用意(長門市)

必要があると考えていますが、デジタル化によって、この分析が瞬時にできるようになりました。市では、その内容を踏まえて、相手のニーズに応じた情報をプッシュ発信する取り組みも進めています。

**江原** 長門市の主立った観光施設には、既にWiFiが整備されていますが、どのようなルートで本市を訪れ、市内の観光施設を巡られているのか、民間のシステム会社が詳細な分析を行っています。われわれとしては、市の代表的な観光スポットである元乃隅神社を訪れた人のうち、3分の1ぐらいは道の駅センザキッチンにも足を伸ばされているのではないかと予想していましたが、実際に一連の旅行で両施設を訪れた方は、かなり少ないことが分かりました。

デジタル化によってこのことが明らかになったこと自体、大きな成果です。二つの施設を回遊していただくためには何が必要かという観点から、新たな施策を考える契機になりました。

## 地域のファンづくりに向けて

**河井** 三浦市長は「100万人が1回来る御坊ではなく、1万人が100回来る御坊へ」とおっしゃいましたが、継続的にまちが発展するためには、何度も訪れてくれる、地域のファンをつくることも重要だと思います。ファンづくりのために重視されていることがありましたら、お聞かせください。

**山田** 地域のファンを増やすためには、エリア全体の魅力を高めることが大切です。例えば閑上地区であれば、ハイキングやサイクリング、朝市の施設を整備したことで、それらを組み合わせた幅広いアウトドア観光を提供できます。一方、名取川を越えた北側の仙台市東部沿岸地域に行く、食をテーマにした複合施設や観光農園、乗馬体験施設など、魅力的な施設が集まっています。それぞれの施設がサービスの質の向上に努力し、それらの情報を行政が一体的に発

信することで、エリア全体の魅力が高まり、リピーターの増加や地域活性化につながっていくと考えています。

**江原** 私は観光客へのおもてなしが最も重要だと考えています。長門市では連携協定を結んだ日本航空（JAL）の協力で、観光関係者を対象に「おもてなし力向上研修」を実施するなど、地域のおもてなし力向上に努めているところですが、早速その成果が現れています。今年の6月、JALが冠スポンサーとして支援いただいている「JAL向津具ダブルマラソン」を市内で3年ぶりに開催したところ、ボランティアの市民が熱心に沿道からランナーの皆さんに声掛けをするなど触れ合う姿が見られました。予約サイトなどには、そのことを高く評価するランナーの皆さまの書き込みも多数ありました。

**三浦** 観光客に対して自然とおもてなしができるためには、住民自身が地域の観光資源をよく把握しておく必要があります。野口オートキャンプ場をさらに有力な観光資源とするためにも、もてなす側がこのキャンプ場の特徴を知らなければいけません。その観点から、御坊市では住民の体験機会を増やすため、平日や冬季など利用者が混雑しない時期を中心に、御坊市民のキャンプ場利用料を割安にすることも考えています。

**染谷** グランピング施設が開業するまでには、地域の中にもさまざまな意見がありました。いがいオープンすると、地元の方々が主体的に炭焼き体験や茶摘み体験をはじめ、各種体験メニューを提供されるなど、施設利用者を熱心にもてなしてくださるようになりました。

ふるさとを愛し、誇りに思い、その魅力を力

強く発信し、観光に訪れた方々を温かくお迎えする。ファンづくりにはそうした市民の力が欠かせないと改めて実感しているところです。

**河井** 各市長のお話をお聞きして、アウトドア施設は地域の力を引き出す重要な観光資源であることがよく分かりました。また、自治体自身が、各施設、民間団体、地域のコミュニティ、さらには他自治体など、幅広い主体と連携することの重要性も教えていただきました。ぜひ、盛り上がりを見せているこのアウトドア需要を、さらなる地域のファンづくり、そしてまちの振興につなげていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

（令和4年7月12日、全国都市会館にて開催）

本コーナーは隔月掲載となります。次回は11月号に掲載予定です。



河井 孝仁  
東海大学文化社会学部広報メディア学科教授

